

園長室だより (臨時号)

令和2年度 第2号 (6月8日発行) 大阪市立立葉幼稚園長 岡林 朗子

暑くなり、子どもたちも水を使った遊びや、土粘土のようにひんやりする遊びを楽しむようになりました。先生たちは早速、寒冷紗(かんれいしゃ)を遊戯室2Fから砂場の藤棚に設置していました。子どもたちが少しでも涼しく遊べるように環境を整えます。(HPにも載せています)

幼稚園教育は環境を通して行います。子どもたちが環境に主体的にかかわって遊ぶことを先生たちはねらっています。

子どもたちは遊ぶことが大好きです。楽しいから遊びます。その遊びが持続すると子どもたちは自分で楽しくするために考えます。考えるとその遊びは発展します。その遊びから充実感、満足感を味わい、さらに、考えたり、試行錯誤したりする姿になります。その遊び込むことが、学びなのです。遊びが持続できるように、先生は子どもたちの様子を見て、環境を整えます。その環境に主体的にかかわることが、幼稚園教育であり、小学校教育につながる学びになります。学びの基礎を幼稚園では育てています。

臨時号では、先生たちのねらった環境についてお知らせしたくて発行します。

色水遊び



年長は昨年の経験から、花を見て色水遊びを連想します。子どもたちは、先生から袋をもらい、袋に花を入れ、水を入れ、モミモミします。「水は少ない方がいいで」など昨年の経験から水の量の加減を自分たちで調節しています。右手で袋を持ち、左手でモミモミする指先の使い方などを含め、これが学びです。経験したことを生かし、自分から遊びを考える。

決して先生は、「花が咲いたからジュース遊びをしましょう」とは言いません。環境を整え、子どもたちからの声を待っています。そして、できたジュースを保育室の透明容器に入れ始めました。さあいいよジュース屋さんかな？

透明容器を保育室に置いておく。これも先生たちの見通しをもった環境設定なのです。

生き物の出会いとかかわり



休日、張間先生がザリガニを釣り、幼稚園に運んでくれました。今ではなかなか見なくなったザリガニです。次の日早速脱皮した皮が…。先生たちは、そっと側に図鑑を置きます。子どもたちは、『わからないことがあったら、図鑑で調べる』ということ学びます。小学校で辞書を使って学習する基礎になる姿です。



ザリガニの脱皮もあれば、チョウの脱皮も見ました！黒い幼虫から、緑のアオムシになる脱皮に「服めいである！」と興奮して知らせにきてくれました。なかなかお尻の脱皮に苦労するアオムシ君を、子どもたちも応援していました。貴重な脱皮の瞬間…。

その日の保育室から『そらとべあおむしくん』の歌が聞こえてきました。子どもの経験を生かし、つなげていく大切な教育です。



カタツムリとのふれあい…。カタツムリを手につかんだり、霧吹きで濡らした板の上を這わせたり、子どもたちは、五感を使って感じています。『カタツムリ、かわいいねえー』という子どもたちのかわいさ！

そして、クラスでは、カタツムリを題材に表現活動していました。経験をつなげていくことで、より子どもたちの表現力(言葉、身体など)を引き出していく教育です。